

# みやぎの 林業だより

MIYAGI  
Green Coast  
Project



バスツアーには多くの若者が参加



植栽したクロマツは順調に生長



管理団体と共に保育作業を体験

## 特集 「みやぎグリーンコーストプロジェクト」が始動！！

東日本大震災の津波により被災した海岸防災林は、今年度、全ての植栽が完了しました。

一方、海岸防災林が潮害や飛砂・風害の防備といった「防災林」としての機能を今後発揮していくためには、植栽はゴールではなく、下刈等の適切な保育活動を継続的に実施し、立派な森林へと育てていかなければなりません。

本号では、30年・50年先の未来に「防災林」を繋げていくため、次の世代を担う若者と海岸防災林とが“ともに成長していく”という想いを込めて始動した、「みやぎグリーンコーストプロジェクト」の取組を紹介します。



林業技術総合センター  
完成披露式典(知事あいさつ)



新本館エントランスホール

令和4年1月11日  
発行

225号

### 特集 みやぎグリーンコーストプロジェクトが始動 ..... 1～3

#### 話題 トピックス

- ◎みやぎ森林・林業未来創造カレッジ開校キックオフイベントの開催
  - 1 新しい林業技術総合センターの完成..... 4
  - 2 カレッジ開校キックオフイベント..... 4

#### 制度見直し

- ◎宮城県の建築物における木材の利用の促進に向けて..... 5

#### 各種取組

- ◎祝！令和3年秋の叙勲(林業振興功労)を2名が受章..... 5
- ◎林野庁東北森林管理局と包括連携に関する覚書を締結..... 6
- ◎「第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会～」の開催 ..... 6
- ◎森林づくり表彰・木づかい表彰..... 7
- ◎仙南地域のスマート林業推進に向けた現地研修会の実施..... 8
- ◎松くい虫被害対策の取組..... 8
- ◎原木しいたけの消費拡大を目指しPRイベントを開催 ..... 9
- ◎「くりはらの苔ふれあいフェア2021」の開催 ..... 9
- ◎気仙沼管内の海岸施設の復旧が全て完了しました..... 10
- ◎林道改良による森林施業の効率化と  
木材生産コストの低減に向けた取組..... 10
- ◎再造林の推進のためのニホンジカ防除対策の実施..... 11
- ◎令和4年度宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集..... 11

#### 市況 ◎木材市況の動向・特産市況の動向..... 12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



特集

# みやぎグリーンコーストプロジェクトが始動

## 一. 現状について

東日本大震災の津波で被災し、復旧が必要な県内民有林内の海岸防災林は、八百ヘクタールを越え、このうち七百五十三ヘクタールが復旧しました。



これらの海岸防災林の復旧を民間団体等(以下・既協定団体)との協働により進めるため、県では平成二十六年度に「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の仕組みを創設し、県及び市町との協定(三十三団体、三十九協定)に基づき百四十六ヘクタールの植栽を既協定団体が行い、現在も保育活動を実施していただいています。

これらの海岸防災林の復旧を民間団体等(以下・既協定団体)との協働により進めるため、県では平成二十六年度に「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の仕組みを創設し、県及び市町との協定(三十三団体、三十九協定)に基づき百四十六ヘクタールの植栽を既協定団体が行い、現在も保育活動を実施していただいています。

## 二. 課題について

震災から十年が経過し、活動団体の高齢化に加え震災の風化によりボランティアが集まらない、また企業からの協賛金が減少するなどの理由か

ら活動の継続が困難となっている団体があるほか、海岸防災林の認知度が低いため企業のCSR等のメリットが少なく、協定を終了する団体も出てきています。一方、周辺地域には観光農園など集客施設の整備が進んでおり、地域の賑わいを取り戻しつつあることから、これらの施設などと連携した活動により、海岸防災林への関心を高めていくことが期待されます。

## 三. 課題解決に向けて

これらの課題解決に向けて、今年度は次の四点について重点的に取組を行うことにしました。

- ①「海岸防災林」の普及
- ②若い世代の取込み
- ③既協定団体の体制強化
- ④周辺集客施設との連携

具体的な取組内容として、既協定団体及び海岸防災林のある市町及び県で構成する「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」を令和二年度末

に設立するとともに、今年度から「みやぎグリーンコーストプロジェクト」と称し、動画制作やバスツアー、地域づくり研修会など普及啓発や地域連携に向けた様々な取組を展開しております。

## 四. みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会について

津波被害から復旧・再生された海岸防災林が「災害に強い森林」、「地域に愛され大切にされる森林」、「震災を伝承する森林」となるための取組を推進する目的で設立し、現在三十七団体が会員となっています。また、協議会の下部組織として、令和三年七月に海岸防災林の保育や管理についての検討及び情報共有を行う「防災林検討部会」を設置するとともに、十一月には周辺集客施設との連携方法について検討及び情報共有を行う「地域づくり検討部会」を設置し、各部会での検討や情報交換等を通して、具体的な取組を推進して行くこととしております。

## 五. グリーンコーストプロジェクトについて

海岸防災林が成長するまで、長期



ラジオ番組  
ロゴ



楽曲提供・出演  
BruteRocks



出演  
THE ARNOLDS  
(内2名)



動画には地元の  
アーティストが参加



間の保育管理が必要となります。  
このため、海岸防災林が人々に親しまれ、適切に維持されていくように、若い世代を取込み、将来にわたって活動を行ってもらうことを目標としています。  
プロジェクトの名称「みやぎグリーンコーストプロジェクト」ともに成長する海岸防災林。緑がたく希望の「曲線」には、次代を担う若者と海岸防災林とがともに成長していくという想いが込められています。主な内容について紹介します。

①ラジオDateFM「SESSION」  
DATE EDITORNS」での番組提供及びラジオCM  
放送時間…毎週金曜日  
午後九時から九時三十分  
海岸防災林を身近に感じてもらうため、番組の中では、これからの活躍が期待される宮城のアーティストが週替わりで担当する番組の中で海岸防災林に関するラジオCMやインフォマーシャルを令和四年二月まで行います。番組の中では、アーティストが海岸防災林の重要性や役割について語る場合もあります。

②動画制作及びYouTubeチャンネル開設  
(チャンネル登録 一三四名 再生回数八二六回)

海岸防災林の保育及び保全活動に、「若者」を代表して地元の男女アーティストたちが参加し、彼らの目線で同世代に「活動の意義」と「楽しさ」を伝えてもらうため、YouTube動画を制作しました。彼らの楽曲をのせたYouTube動画には、海岸防災林の現状や保育ボランティア活動の様子、彼らの体験を通じて感じたそれぞれの想いが収められています。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=unlvzBTbjik>

③バスツアー開催

令和三年十一月三日、六日、七日の三日間で、海岸防災林の保育作業を含むバスツアーを開催しました。バスツアーは東松島大曲コース、仙台荒浜コース、亶理吉田浜コースとし、三日間で計六十二名の方に参加していただきました。

各コースとも、午前中は既協定団体の方々に作業方法や海岸防災林の役割についてレクチャーを受けなが

ら、保育作業を体験していただきました。ススキなどが繁茂する植栽地がみるみるきれいになる姿を見て達成感を感じる方、また、クロマツに絡みつくツルマメを無心に取りの方など、参加されたそれぞれの方々に気持ちよく汗を流していただきました。

また、お昼は地元の新名物や郷土料理など、各エリアのグルメを堪能いただくとともに、午後からは海岸防災林の近くにある周辺集客施設や観光スポットを訪問し、各エリアで充実した一日を過ごしていただきました。

バスツアーには



気持ちよく汗を流す参加者



集合写真(東松島大曲コース)



保育作業の  
前と後



周辺集客施設(写真：仙台うみの杜水族館・よがさきおほじきアート)も満喫！

二十代を中心に多くの若者が参加し、アンケート結果では、八十三パーセントの方々が保育作業に達成感を感じたと回答されております。さらに、良かった点として、「現状を知ることができたこと」という意見を多くいただき、海岸防災林の重要性と普及啓発に繋がったものと考えます。

④地域づくり研修会開催

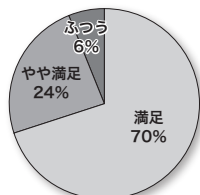
令和三年十一月二十四日には、沿岸地域の新たなにぎわいづくりを創出していくため、既協定団体、周辺集客施設、関係市町が一堂に会し情報共有を行う研修会を開催しました。内容としては、県から海岸防災林の管理方針やバスツアーのアンケート結果を説明したほか、既協定団体からは海岸防災林での活動内容の説明、さらに周辺集客施設からは、現在沿岸地域で行っているにぎわいづくりのための取組について紹介をいただきました。当日は周辺集客施設だけではなく、旅行会社など、合計四十八団体、六十九名と多くの方に参加いただき、海岸防災林を含めた、沿岸地域の新たなにぎわい創出の一步を踏み出すことができました。

六. 今後について

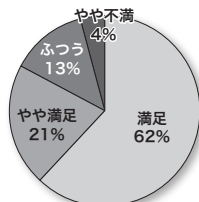
このプロジェクトは、今年始まったばかりです。これからも引き続き、海岸防災林の普及啓発や地域連携、そして既協定団体及びみやぎ海岸防災林・森林づくり協議会の体制強化に向け、取り組んでいきます。

(森林整備課)

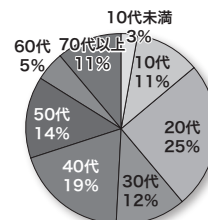
バスツアーアンケート結果



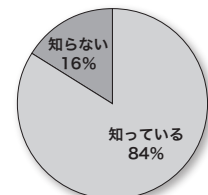
ツアー全体の感想



保育作業の達成感



参加者の年代別割合



海岸防災林について



この取組は新・宮城の将来ビジョンに掲げるSDGsの推進のための横断的な視点である「地域づくり」「人づくり」の取組であり、地域に愛され大切にされる森林(≒持続可能な森林)の実現に向けた、新しい取組でもあります。



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
開校キックオフイベントの開催

一 新しい林業技術総合セン  
ターの完成

(二)建設の背景

林業技術総合センター本館は、昭和四十五年に建設以来、改修・修繕を繰り返してきましたが、築五十年を超え、抜本的な老朽化対策が課題となっていました。また、昭和五十六年に建設され、林業技能者の宿泊型研修施設として使用されてきた研修館は、近年、宿泊を伴う研修の減少から機能の見直しが必要となっていました。

新しい事務研究棟は、現行の機能に展示施設の役割を加えて整備したものであり、本年九月に完成しました。事務・研究機器を整えた後、十二月上旬から業務を開始しています。

(三)新本館の設計コンセプト

新本館の建設に当たり、次の三点をコンセプトとして設計しました。

①CLTパネル工法等新たな木材利用技術を積極的に導入し、シンボリックかつ普及性の高い工法を採用した研究・研修

施設とする。(県産材によるCLT、LVL、集成材、製材、構造用合板を使用。)②災害に強く、安全性の高い施設とする。③維持管理が容易で、地球環境、周辺環境に配慮した施設とする。

(三)施設の概要

建築工事は、令和二年八月に着工し、完成まで十四か月を要しました。新しい施設の概要は左記のとおりです。

名称	宮城県林業技術総合センター		
建築場所	宮城県黒川郡大衡村大衡字はぬ木14		
用途	事務所、研究施設、研修施設		
構造・規模	事務研究棟	木造2階建(CLT工法)	床面積 962.19m <sup>2</sup>
	研修棟	木造平屋建(CLT工法)	床面積 280.80m <sup>2</sup>
	エントランス棟	鉄骨+木造	床面積 (97.92m <sup>2</sup> )
			延床面積 1,242.99m <sup>2</sup>
木材使用量	計 449m <sup>3</sup>		
CLT	338m <sup>3</sup>	(75%)	}
LVL	48m <sup>3</sup>	(10%)	
集成材	33m <sup>3</sup>	(7%)	
製材	19m <sup>3</sup>	(4%)	
構造用合板	16m <sup>3</sup>	(4%)	

研修等の機会がありましたら、是非御参加いただき、実物に触れて新しいタイプの木造建築の良さを体感してください。



研修棟(左)と事務研究棟(右)

二 カレッジ開校キックオフイベント

(一)キックオフセレモニー

林業技術総合センターの完成披露と合わせ、来春のみやぎ森林・林業未来創造カレッジの開校を宣言するため、十一月十二日にキックオフセレモニーを開催しました。

当日は多くの方に御出向いただき、みやぎ森林・林業未来創造機構の共同代表である(公財)みやぎ林業活性化基金の佐藤理事長より、カレッジの開校と、林業へ踏みだそうとする若者たちや就業者の方々のニーズにこたえる、多様な研修を展開していくことが宣言されました。

(二)キックオフイベント

十一月十二・十三日の二日間にわたり、キックオフイベントが開催されました。トークライブや、林業の安全とイノベーション、交流会、森林・林業とつながる・未来を拓ける交流会などが行われ、若い世代が魅力を感じる森林・林業の創造に向けて多くの方々が交流する場となりました。



研修生から知事へ自作の「おにぎりトレイ」をプレゼント



伐倒練習機を利用し行われたチェーンソーマスター競技会

(林業振興課・林業技術総合センター)

# 宮城県の建築物における木材の利用の促進に向けて

## 一 法律の改正

戦後、植林された国内の森林資源が本格的な利用期を迎えていることや、木材利用の技術の高まりが見られることから、「公共建築物における木材の利用に関する法律（平成二十二年法律第三十六号）」が改定され、名称を「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に改められ、令和三年十月一日から施行されました。脱炭素社会の実現に向け、木材利用促進の対象を公共建築物から建築物一般に拡大することが改正の趣旨です。

法律の改正を受け、県では今年度中に「宮城県の建築物における木材の利用の促進に関する方針（平成二十三年十月七日施行）」を改訂することとしており、国の方針に則して民間建築物まで対象範囲を拡大し、県産材利用を推進していくこととしています。

## 二 市町村・民間事業者を対象に勉強会を開催

十一月十八日に、林業技術総合センターを会場として、林野庁林政部木材利用課の櫻井知様、国土交通省内閣官房官庁整備課木材利用推進室の桑原諒子様を講師として、勉強会を開催しました。法律改定の趣旨や国の大型木造公共建築物等の優良事例等について御紹介いただいたほか、県から、県内の木造建築物の事例や改正する県の方針について情報提供しました。



勉強会の様子

（林業振興課）

県では、平成二十八年から、宮城県CLT等普及推進協議会と連携し、非住宅建築物を中心に、県産材利用を推進していきますが、この法律の施行によって、今後、更なる県産材利用が期待されることから、引き続き協議会と緊密に連携し、活力溢れる林業・木材産業の実現に向け、取組を推進していきます。

# 祝！令和三年秋の叙勲 （林業振興功労）を2名が受章

去る十一月三日、令和三年秋の叙勲受章者が発令され、林業振興功労部門において、元全国食用きのこ種菌協会会長理事の郡山賢一氏（仙台市）が旭日小綬章を、現山林種苗生産業の齋藤豊彦氏（東松島市）が旭日单光章を受章されました。

郡山氏は、昭和四十八年にきのこ種菌業を営む家業の東北椎茸株式会社（現：株式会社キノックス）に入社して以降、長年にわたって、本県のきのこ業界の発展に貢献されております。

平成十四年に「宮城県食用茸協同組合」及び「全国食用きのこ種菌協会」の理事に就任し、現在に至るまで、全国の会長理事等の要職を務め、きのこ種菌技術の向上や、きのこ登録品種育成者権の保護強化など、全国のきのこ産業の発展に大きな功績を残されております。

平成二十二年からは、「宮城県特用林産振興会」の会長を務め、東日本大震災による原発事故に伴う放射能汚染からの生産

再開・損害賠償対策の取組や、きのこ生産・経営技術の普及啓発等に尽力され、特用林産物の震災からの復興と生産振興をけん引しておられます。

齋藤氏は、昭和四十七年に家業の山林種苗生産業に従事して以降、現在に至るまで長年におたって、本県の森林育成の根幹となる優良苗木の安定供給に尽力されております。

平成二十三年三月には、東日本大震災の津波により所有する苗畑が甚大な被害を被ったものの、不屈の精神力と持ち前の向上心により困難を克服し、翌年には生産再開を果たしました。

壊滅的な被害を受けた本県の海岸林を再生するために必要となる抵抗性クロマツ苗木の生産にいち早く取り組み、通常二〜三年を要する育苗期間を一年に短縮し、均質で優良な苗木を生産する技術の開発と定着を図りました。さらに、こうした技術を惜しみなく県内外に普及し、海岸防災林の早期復旧の礎を築き上げるなど、大きな功績を残されておられます。

御受章、誠にありがとうございます。

（林業振興課）

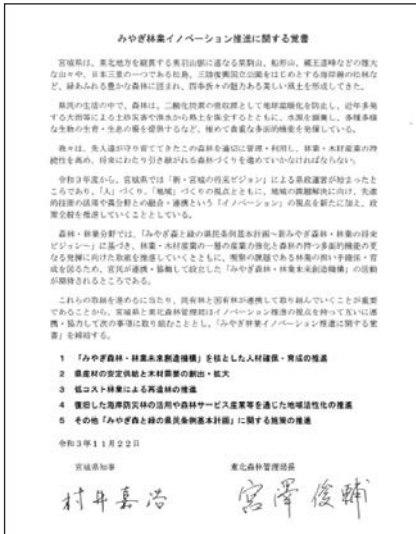
### 林野庁東北森林管理局と包 括連携に関する覚書を締結

東北森林管理局と宮城県は、地域の林業・木材産業の持続性を高め、将来に引き継がれる森林づくりを進めていくため、互いに連携・協力した活動を推進することを目的に、「みやぎ林業イノベーション推進に関する覚書」を締結しました。

本県は、これまで林業技術の開発・普及などの分野で、国と緊密な連携を図ってきました。最近では、県と産業界で設立した「みやぎ森林・林業未来創造機構」のアドバイザー機関として、森林管理署に参画いただいたところですが、

覚書では、未来創造機構を核とした取組をはじめとして、県産材の安定供給と木材需要の創出・拡大、再造林の推進、海岸防災林の活用等を通じた地域活性化の推進に関することなど、「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」を達成するための幅広い項目が盛り込まれました。

十一月二十二日に県庁で



あつた覚書締結式で村井知事は「将来にわたり森林・林業分野が成長を続け、若い世代が積極的に参入できる環境を整えることが必要だ。」と連携の意義を強調しました。また、東北森林管理局の宮澤俊輔局長は、「宮城県と更に連携し、持続可能な林業・木材産業の発展と次世代を担う人材の確保に繋げていく。」と述べました。

### 「第四十回全国豊かな海づくり 大会」食料王国みやぎ大会」 が開催されました

令和三年十月三日、台風一過の秋晴れの中、本県初となる「全国豊かな海づくり大会」が、石巻市において開催されました。

本大会は、水産資源の保護・管理や海・河川・森の環境保全、災害から復旧した漁業や水産加工業により生産された水産物の消費拡大に取り組むことにより、水産業の振興と地域活性化を図るとともに、東日本大震災からの復興を成し遂げた水産業の姿や、本県の魅力を全国に発信することを目的に開催されたものです。

林業分野では、海と森のつながりをPRするため、大会関連の各種イベントへの参加や、海上歓迎・放流行事の会場に「おもてなしブース」を出展したところですが、

からもたくさんの方の御協力・御協賛をいただいたところですが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会規模が縮小され、両陛下はオンラインでの御出席となりましたが、震災からの復興に際し、全国からいただいた支援に対する感謝の気持ちをお伝えすることができたものと考えます。

これを機会に、豊かな海を育む森林の価値や魅力についても、多くの県民に浸透し、林業・木材産業がさらに注目されることを期待します。



(林業振興課)

# 森林づくり表彰・木づかい表彰

県では、みやぎ森と緑の県民条例に基づいて、森林整備活動や木材利用促進活動において、特に功績があった団体を表彰しています。

十一月二十五日に村井知事から六つの団体に感謝状を贈呈しました。



感謝状贈呈

(左から 南三陸 YES工房様、イオンモール新利府南館様、大崎市様、知事、仙南中央森林組合様、鈴木工業様、鳴子林業研究会連絡協議会様)

## ◆森林づくり表彰(二団体) 鳴子林業研究会連絡協議会

昭和六十年に設立されて以降、森林・林業の普及啓発に幅広く活動され、鬼首小学校への

植樹活動支援は、今年で二十五周年を迎えました。



毎年児童を招いて鬼首地域で植樹を実施

## 鈴木工業株式会社

利府町内の県有林約五ヘクタールにおいて、十年間にわたり、社員自ら森林整備を行い、環境教育活動にも取り組んでいます。



社員等が継続的な森林整備を実施

## ◆木づかい表彰(四団体) 大崎市

三本木パークゴルフ場や鳴子総合支所などの公共施設の新設

に、地域材をふんだんに使用し、森林・林業、地域経済の振興に積極的に取り組んでいます。



大崎市鳴子総合支所の新築にはCLTを活用

## 仙南中央森林組合

昨年建設された新事務所は地域材をふんだんに使用し、入口には県内初のみやぎCLT塀を設置するなど、県産材の魅力をPRする施設となっています。



木の良さが感じられる外観

## イオンモール株式会社

イオンモール新利府 南館 県内のFSC認証材を利用し

た「木育」施設を整備し、大型商業施設としては初となるFSC全体認証を取得しています。



木育広場には登米市産スギ材等を使用

## (一社)南三陸YES工房

東日本大震災後、地域住民の「雇用」と「交流の場」を創出しながら、新たな南三陸杉の振興や木育の推進などに取り組み、COC認証も取得しています。



木組みジャングルジム作りの体験

受賞された皆様、おめでとうございます。

(林業振興課)



### 仙南地域のスマート林業推進 に向けた現地研修会の実施

仙南地域におけるスマート林業推進に向けた取組として、チャレンジみやぎ！五〇〇万本造林事業（低コスト再造林の実践提案）を活用し、丸森町内で宮城南部流域森林・林業活性化センター仙南支部と丸森町森林組合の共催により、先駆的な林業機械実演の研修会が開催されました。



山もつとモット

現場は、皆伐後の造林未済地解消に向けた低コスト再造林のモデルエリアとなります。研修では、造林工程（地拵えや下刈り）の効率化・省力化を目指し開発された多用途造林作

業機械「山もつとモット」が県内で初めて採用され、約七十名の参加者が見守るなか、伐根の粉碎等が行われました。また、地図作成が可能な、ドローン「PHANTOM4RTK」による撮影も実演され、その場でオルソ画像や3D画像の作成等が実施されました。



PHANTOM4RTK

県では、次世代の森林資源の確保や森林の持つ多面的機能（水源涵養機能等）の更なる発揮のため、計画的かつ低コストな再造林システムを推進しており、その一環として再造林費用の削減に取り組んでいます。当所では、これらの取組について関係機関と連携しながら、今後

も支援していきます。  
（大河原地方振興事務所）

### 松くい虫被害対策の取組

「松くい虫被害」は、体長約一ミリメートルのマツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリによって松の樹内に運ばれ、通水障害を引き起こすことにより枯死に至る現象です。

東部地方振興事務所管内においても特別名勝「松島」地域に位置する東松島市宮戸地区を中心に被害が多く見られます。

平成八年以降減少傾向にあった被害量は東日本大震災後に増加しましたが、徹底した対策の結果、近年は減少傾向で推移しています。

松くい虫被害対策は、健全な松に薬剤を散布・注入する「予防対策」と、枯れた松を伐倒し、くん蒸やチップ処理など直接処理をする「駆除対策」の二つがあります。松くい虫被害を防止するためには、予防と駆除を組み合わせることでそれぞれを適期に実施することが非常に重要です。

当事務所では、より効果的な防除が実施できるよう、業務改善に取り組まれました。例えば、これまで県と市が別々に被害木調査を実施していた宮戸地区にお



被害木調査 現地打合せ

いて、管轄区域の枠組みを取り除き、市・森林組合と連携して一体的に被害木調査を実施しました。その結果、作業の効率化が図られ調査日数が短縮できたほか、関係者の意識改善が図られ、適正な防除実施について共通理解が得られました。



くん蒸処理実施状況

松くい虫被害は、徹底した対策により被害抑制の効果が得られます。当事務所では管内の松林を被害から守るため、これからも尽力してまいります。  
（東部地方振興事務所）

# 原木しいたけの消費拡大を 目指しPRイベントを開催

十月三十一日(日)に仙台市太白区の秋保ヴィレッジアグリエの森において、原木しいたけのPRイベントを開催し、生産者による試食販売を行ったほか、来場者による植菌体験会を実施しました。

本イベントは、仙台市原木しいたけ生産推進協議会とともに、原木しいたけを広く消費者にPRし、原発事故による風評被害の払拭と消費拡大を図ることを目的としています。

試食販売会では、来場者が原木しいたけの美味しさに驚きながら、商品を手取る姿もあり、生しいたけは午前中に完売するほどの盛況で、原木しいたけの魅力が大勢の方に感じてもらったことができました。

植菌体験会は、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、一回当たりの参加者を四組に限定、延べ六十八組が参加しました。始めに生産者から植菌方法について説明を行った後、参加者には、しいたけ栽培の体験として、ホダ木に種駒を打ち込む

作業を行っていただきました。また、参加者が自宅で原木しいたけの栽培や収穫が行えるよう、収穫間近のホダ木をプレゼントしたところです。植菌した原木は、しいたけが発生するまで二年かかりますが、しっかり管理すれば四年程度は収穫を楽しむことができます。

今後も新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、原木しいたけの風評被害払拭と消費拡大を目指し、地元生産者と協力したPRイベント等の開催を支援していきます。



親子での参加が目立った植菌体験会

(仙台地方振興事務所)

# 「2021の苔ふれあい フェア2021」の開催

十月二十三日(土)、「栗駒特産物直売センター山の駅くりこま(栗原市栗駒岩ヶ崎)」を会場に「くりはらの苔ふれあいフェア2021」(主催全国苔フェスティバルin栗原実行委員会)が開催されました。

この催しは、栗原地域の苔に着目し、人工栽培による産地化を目指した取組みの一環で、「くりはらの苔」のPRと認知度向上を目的に、昨年に続き二回目の開催となります。

苔の展示・販売ブースでは、市内で苔栽培に取り組む文字苔っこの会や栗駒高原森林組合をはじめ、石巻市や山形県の事業者が集い、苔に彩られた関連商品(苔盆栽、苔玉、テラリウムキットなど)の販売が行われました。また、体験ブースでは、日本苔技術協会の苔アドバイザーによる苔栽培指導のほか、苔テラリウム製作体験、苔玉製作体験の三つのワークショップが軒を連ね、

いずれも定員を上回る参加希望者があり、抽選で外れた人も傍観するほどの盛況ぶりでした。

当日は時折小雨や強風に見舞われる天候にもかかわらず約六百人が訪れ、苔の清楚な佇まいに癒される人や触れ合う楽しさを実感される人など、多くの来場者から「苔の産地化はとて素晴らしい取組だと思ふ。イベントは来年も行ってほしい。」などの意見が寄せられました。

参加事業者からは「事業者間の交流が図られ、事業連携の気運が一層高まり、今後の展開につながった。」との意見が聞かれました。



苔もじっくり品定め

苔テラリウム製作体験



(北部地方振興事務所  
栗原地域事務所)

### 気仙沼管内の海岸施設の復旧が全て完了しました

東日本大震災で被災した当管内の海岸防災林の植栽が、令和三年四月に全ての箇所地完成しましたので、ご報告します。

管内では、海岸防災林の復旧・復興工事を十四箇所において実施してきたところです。このうち最終工事となった気仙沼市大島地区は、事業全体計画の合意形成が図られるまでに説明会等を複数回重ねるなどして事業を進めてきました。

大島は、「緑の真珠」とうたわれる観光地でもあることから、田中浜については、コンクリートの防潮堤ではなく、L1の高さに「土堤」として盛土を行い、表面は植栽することで防災林の復旧を図りました。植栽木はクロマツのみならず、地元の要望を受けヤマザクラやケヤキ、コナラなどの広葉樹も混交させ、七ヘクター、約三万五千本としました。

海岸防災林は、海からの潮風や飛砂などから背後の民家や公共施設、農地などを守る重要な公益的機能があります。また、

津波の減勢や漂流物をせき止める効果なども期待されるため、機能の早期回復が望まれます。

復旧工事は完成しましたが、事業はまだ終了ではありません。一斉に植栽した防災林が全て一律に成長するわけではないため、下草刈りや本数調整伐などの保育管理が重要となります。

今後も植栽木の成長を見守りつつ、適切な管理を行っていきます。



「田中浜」全景

(気仙沼地方振興事務所)

### 林道改良による森林施業の効率化と木材生産コストの低減に向けた取組み

色麻町「言野〜岳山線」

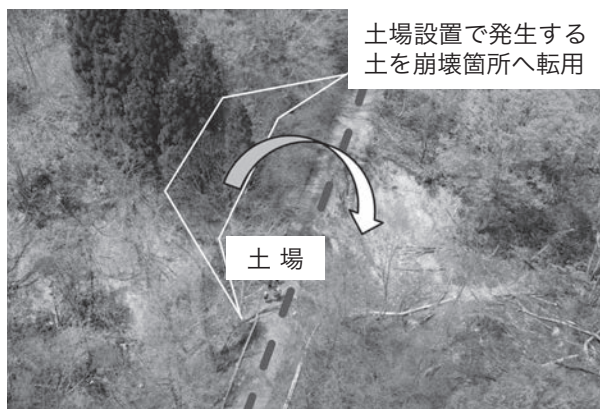
本林道の沿線には国有林も含めて豊富な森林資源が存在するものの、伐採・搬出コストが高いことで、これら豊富な森林資源の利活用が進まない現状がありました。そこで、「林道改良による効率的な森林整備」、「木材搬出コストの低減」の二項目について検討し、解決に向けた取組みを実施したのでご紹介します。

初めに、「効率的な森林整備」については、本林道を基幹林道と位置付けし、作業路網の計画を検討しました。十年分の伐採予定エリアを年度ごとに定め、これまでの人力中心による伐採行程を見直し、高性能林業機械を中心とした伐採行程としました。一方、本林道沿線には中間土場が無いことから、林道改良事業を導入し、新たに土場を設置することで効率的な搬出が可能となるよう計画しました。

次に、「木材搬出コストの低減」については、搬出車両を大型化することを検討しました。本林道は開設年度が古い二級規

格の林道のため、大型車両が通行できるか不透明な状況でありました。このため、縦断勾配や幅員等の改良が必要な箇所を把握することを目的に全線踏査し、大型車両の通行に支障が無いことを確認するとともに、土場設置箇所付近に大型車両の転回場を設置することで、大型車両による木材の搬出を図ることとしました。

本林道改良計画に基づく事業は、令和二年〜三年にかけて地方創生道整備推進交付金を活用し、実施しています。



土場設置予定箇所

(北部地方振興事務所)

# 再造林の推進のためのニホンジカ防除対策の実施

登米市の主要な森林資源であるスギは、利用期を迎えており、将来的な木材資源の確保に向けて、伐採後の計画的な再造林が課題になっていきます。その推進に当たっては、伐採から植栽までを一体的に行う、一貫作業等低コスト再造林の取組が進められておりますが、近年、ニホンジカの被害が急拡大しており、植栽木の枝葉の食害や剥皮等による枯損が深刻となっております。



伐採跡地近隣に出没  
(津山町森林組合提供)

特に、スギの植栽地における被害が激しく、登米市内の一部の箇所では、植栽と併せてニホンジカの防除対策を行うことが不可欠な状況です。

このようなか、登米市森林管理協議会では令和二年



単木防除資材の設置状況

度から、林業成長産業化地域創出モデル事業を活用し、急傾斜地に適したニホンジカの防除対策を検討するため、登米市津山町内のスギ植栽地において、単木防除資材の効果調査を始めました。令和三年二月に植栽と同時に単木防除資材を設置し、同年七月に調査を行った結果、資材を設置しない場合では八割近い植栽木がニホンジカによる被害を受けていました。資材を設置した箇所では、被害は見られませんでした。

今後、単木防除資材設置が植栽木の成長に与える影響を確認し、ニホンジカの被害に対する防除効果の調査と長期的なコストについて情報収集を行い、低コストで効果的な防除対策を検討することとしています。

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所

## 令和四年度 宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集

森林体験活動や自然観察の指導、森林作りを通して森林・林業に関する正しい知識の普及活動を行う人材を育成するため、宮城県森林インストラクター養成講座の受講生を募集しています。

① 申し込み資格 令和四年四月一日現在で満二十歳以上の県内在住の方で、森林学習や自然体験の指導等に積極的に取り組むことができる方

② 募集人員 四十人程度

③ 受講期間 令和四年五月から令和五年一月までの主に土曜日、日曜日又は祝日の十八日間  
(このほか、開校式五月、認定試験二月及び認定証授与式三月があります。)

④ 講座内容 森林・林業、動植物、野外活動等に関する知識・技能習得のための講義と実習。



森林インストラクター養成講座

⑤ 受講費 無料(予定)ただし、受講に必要な図鑑等を個別に購入していただくことがあります。

⑥ 申込方法 令和四年二月十日(木)までに、申込書・履歴書・八百字程度の小論文(志望動機と抱負)・返信用封筒(八十四円切手貼付)を同封し、県自然保護課へ提出して下さい。

⑦ 認定までの流れ 一次試験(小論文)及び二次試験(面接)に合格すると講座を受講できます。全十八講座のうち、八割以上出席した方が認定試験の受験資格を得られ、試験に合格した方が宮城県森林インストラクターとして認定されます。

⑧ 認定後の活動について 広く県民を対象に森林・林業の普及啓発活動としてのボランティア団体等での活動、海岸林整備、緑化イベントの指導など、幅広い活動が期待できます。

⑨ 申込み・問合せ 千九八〇―八五七〇

仙台市青葉区本町三丁目八一―一 宮城県環境生活部自然保護課

みどり保全班宛て

電話:〇二二―二二―二六七六  
FAX:〇二二―二二―二六九三

(自然保護課)

## 木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和3年6月)

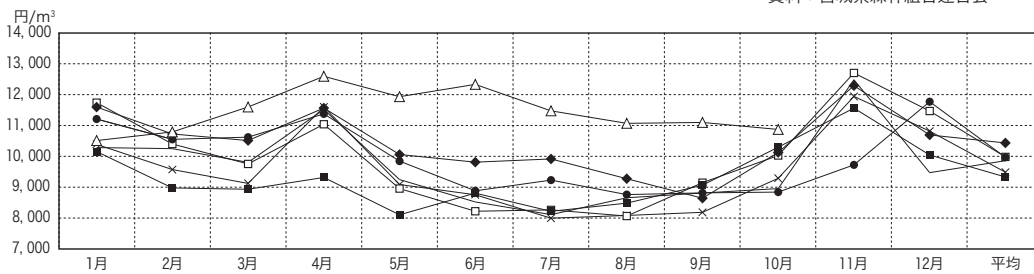
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	11,880	—	11,520	11,520	—
	4.00	10~13直曲	7,200	10,080	10,080	10,000	—
		14~18	9,000	10,080	10,080	10,000	—
		20~28	11,520	11,520	11,520	10,080	—
		30上	11,520	11,520	11,520	12,600	—
	3.65 ~4.00	20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料: 宮城県森林組合連合会

### 概況

#### 素材動向

・素材平均価格は前年と比較し、上昇している。



× 平成28年  
 □ 平成29年  
 ● 平成30年  
 ● 平成31年  
 ■ 令和2年  
 △ 令和3年

素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

## 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

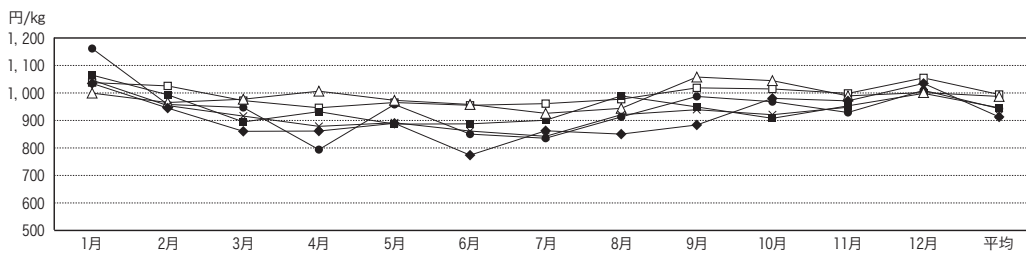
単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	

資料: 仙台中央卸売市場

### 概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。  
 ・令和3年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年を下回って推移している状況である。



□ 平成28年  
 ● 平成29年  
 ● 平成30年  
 ■ 平成31年  
 △ 令和2年  
 × 令和3年

図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和3年4月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和3年8月(戸)	1,462	1,127	335	77.1
令和2年8月(戸)	1,133	983	150	86.8
前年同月比(%)	129.0	114.6	223.3	—
令和2年9月~令和3年8月(戸)	14,954	11,203	3,751	74.9
令和元年9月~令和2年8月(戸)	14,943	10,645	4,298	71.2
前年同期比(%)	100.1	105.2	87.3	—


資料: 住宅着工統計

### 概況

#### 新設住宅着工戸数

・8月の新設住宅着工数及び木造率は対前年比で増加した。  
 ・1年間の新設住宅累計は前年と同水準であるが、木造戸数が増加し、木造率は上がっている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負




## 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘


本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所



## 坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生  
「めぐりめぐみ」をテーマに  
私たちは自然を愛し、  
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

## 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘  
専務理事 小澤 幸三  
理事 亀山 征弘  
理事 石田 竜也  
監事 阿部 貢夫  
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

## 宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀  
副会長 奥津 文男  
副会長 永井 政雄  
副会長 菅原 正義  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる  
奥地水源地域の森林整備

## 水源林造成事業

### 宮城県水源林造林協議会


〒980-0011  
仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
宮城県森林組合会館内  
TEL (022) 266-7121

## 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門


〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械




## 筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013  
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

森林は大切な資源です  
 森林整備を通して  
**美しい森林を未来に伝えます**

 一般社団法人 **宮城県林業公社**  
 (森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
 TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

**住んでよし! 建てて満足!**  
 「優良みやぎ材」の家



優良みやぎ材、県産材等についてのお問合せは

**みやぎ材利用センター**

仙台市青葉区東照宮1-8-8

▶本部/宮城県木材協同組合 tel: 022(233)2883

▶総合窓口/宮城木材文化ホール tel: 022(239)2661

**スゴいぞ! みやぎの木のチカラ!**



**木×SDGs**

Wise use of woods from **みやぎ!**

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える「木材」を上手に利用すること（木材のワイズユース）は温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

**みやぎ**には良質な木材や優れた加工技術があり、JAS製材品など品質の高い製品も豊富です。どうぞ住まいづくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を改めて実感してください。私たちが誠意を込めてお手伝いします。

宮城県木材協同組合の取組例

**JAS製材品の  
利用拡大**



公営住宅建築における  
JAS材利用

**外構の木質化**



門扉(塀)の木質化

**宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター** 理事長 千葉 基 tel: 022(233)2883  
<https://miyagi-wood.jp>



**緑の募金**にご協力をお願いします!

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～

公益社団法人 **宮城県緑化推進委員会**

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階  
 TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)<sup>もりちから</sup>等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

## JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166      仙北地区木材センター 0229-72-1877  
大衡総合センター 022-345-2205      津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は      ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、  
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 令和4年度の購読申込受付開始!!



**GR 現代林業**  
A5判 80頁  
年間購読料 5,400円(送料込み)



**林業新知識**  
B5判 24頁  
年間購読料 3,000円(送料込み)



**山林**  
A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課

☎022-222-3011